

VPIを活用して職業選択支援

亞細亞大学キャリアセンターを訪ねて

亞細亞大学キャリアセンター 部長 岩崎孝二さん
聞き手 編集部

エンプロイアビリティの環境に対応して キャリア形成支援

亞細亞大学は経営学部、経済学部、法学部、国際関係学部、大学院3研究科および短期大学から構成され、東京の郊外武藏野市に位置する。学生数は6,519名（大学院除く、大学5,895名／短大624名、2004年5月1日現在）。

同大学では2005年1月、キャリアセンターを発足させた。これは社会の変化に対応し、従来の就職部の目的と機能を改変し学生たちに対してより効果的なキャリア形成支援を行うことを目的としたものである。

日本的な雇用関係が変わりつつあることは以前から指摘されていたが、特にバブル崩壊以後、企業は社員の受け入れに際して、いっそう高い基準を設け、即戦力となるような質の高い学生を歓迎するようになった。また、これまで終身雇用を前提として多くの企業は、新入社員たちに対し多大な時間と資金を投入して自社で職業人としての教育を行ってきたが、最近は個々人が自力で自らのキャリアを積むことが求められるようになった。さらに激しく変化する経済の動きの中で絶えず企業の存続が問われ、また業態変更などが日常化し、労働者の能力は現在勤務している企業内においてだけではなく、労働市場においての評価も重きをなすようになったのである。働く者は絶えずエンプロイアビリティ（雇用される能力）を高めておかなければならぬ。

こうした社会環境の中では、「学生たちが入社すること」が主目的になりがちだった従来の就職部の活動では十分な対応ができない。亞細亞大学キャリアセンターは、これまでとは異なるコンセプトとメニュー内容で学生たちをサポートしている。同センターの岩崎孝二部長はその目的と役割について次のように語る。

「就職部というのは、就職年次つまり3年生から4年生にかけての学生を対象に会社に入ること＝就職支援に主眼がありました。しかし、こうした従来の就職部のあり方では社会の変化に対応したサポートはできません。キャリアセンターの役割は4年間全期間を有効に使い、学生たちに対する就職支援にとどまらず、「職業というフレーム」を通して、彼らが豊かな人生が送れるような意識を形成することにあります」

低学年から充実したキャリア形成支援

亞細亞大学キャリアセンターの大きな特色の一つが、学生たちに対し1年生のうちから充実したキャリア形成支援を行っていることだ。学生たちは入学するとキャリアセンターから配布された「キャリアデザインガイド1 ジョブマップ（JM）」を手にする。このガイドブックはキャリア形成の必要性やそのための心構えがわかりやすく記述され、日本の代表的職業の紹介のほか、数種類のチェック・チャート、ワークノートや「キャリアデザインロードマップ」等が掲載され、実用性にも富んでいる。また、キャリアガイダンス、

新入生オリエンテーションゼミ、キャリアデザイン講座など低学年向けの授業やガイダンスのテキストとしても用いられる。

このほか1年生の後半に、全学共通のキャリア科目として「人生と進路選択」が開講される。これは人生と職業との関わりを考え、自分のキャリアデザインを描くためのモチベーションを高めるために行われるもので、講師は同大の教員のほか外部の専門家が務め、正規の授業科目としてカリキュラムに組み込まれ、2単位が設定されている。

「人生と進路選択」の受講者は講義終了後、課題レポートの提出を義務付けられている。ちなみに平成15年度の「人生と進路選択」の講義には次のようなテーマが設定された。

- ・講義の目的と学生キャリア
- ・カレッジプランとライフプラン
- ・ライフデザインとキャリアデザイン
- ・人生と職業
- ・社会（産業）の仕組み
- ・仕事の生きがい論
- ・ボランティア活動と人生
- ・企業文化とエチケットマナーの基本
- ・女性の就職と労働問題
- ・企業が期待する人材像
- ・職場の法律
- ・就職・進路の指針

こうした低学年からのキャリア支援について、岩崎部長はその意味を「早くからキャリア支援を行うことで、自らの人生に対して真剣に考えるようになりますし、職業意識を醸成することにも役立ち、3・4年生になったときにより明確な目的意識を持った就職活動ができるようになるでしょう。若年者の早期離職やフリーター、あるいはニートが社会問題になっていることを考えると、このような取り組みの必要性はいつそう高まるのではないか」と話す。

主なキャリア支援プログラム—— キャリア形成支援から実践的プログラムへ

キャリアセンターが実施する主なキャリア支援プログラムを年次生ごとに見てみよう。1・2年生のキャリア形成支援から3・4年生の実践的な就職活動支援

へとプログラムの力点が移っていく。

【1年生】

- ◆ 新入生キャリアガイダンス…「キャリアデザインガイド1 ジョブマップ（JM）」をテキストに活用し、学生生活の目標設定やグランドデザインを描くことを支援するキャリアガイダンスを実施
- ◆ 「職業ハンドブック OHBY」を活用したキャリアガイダンス…自分の特性を把握し、長所・短所を自覚しながら学生生活に取り組む機会を与えるとともに、興味・関心から職業選択の方向性を探る
- ◆ 就職基礎能力の修得…厚生労働省が提示している就職基礎能力のガイドラインを参考に、その基準に達しない学生に対してキャリアアップテストとしてコンピテンシー診断および就職対策WEBテスト（就職基礎学力を測るSPIテスト）を実施

【1～2年生】

- ◆ CACGS (Computer Assisted Career Guidance System)／「キャリア・インサイト」の活用ガイダンス…コンピュータによる職業選択や職業適性診断システムの意味や利用法を説明し、職業選択に対する意識を高める
- ◆ キャリア・デザイン講座…「学生生活のグランドデザインを描く」「自分史をフィールドワーク」「仕事って、働くって何だろう」「職業マッチングチェックチャート」「仕事・職業について調べてみよう」「大学生の社会見学」の6種類のプログラムを用意
- ◆ 職業興味検査の実施…VPIによる職業興味検査、職業レディネス検査を実施
- ◆ キャリア科目「キャリア・インターンシップ」…学外での職業体験を通して社会人になる自覚を身に



亜細亜大学キャリアセンター 岩崎孝二部長

つけ、その後の大学での学びに対する意欲を高めることがねらい

【3・4年生】

- ◆ キャリアガイダンス…「キャリアデザインガイド2・Jump up Note」を活用した自己理解の支援やキャリア講演会、業界セミナー、企業説明会、職業適性検査、OB・OG懇談会、ビジネスマナー講習会、エントリーシートと履歴書の添削、就職活動に対する個人相談など、より実践的なメニューで学生たちの就職活動を支援
- ◆ キャリアプランニング講座…「キャリアデザインの必要性」「自分を知る」「自分の職業観を知る」「なりたい自分を知る」「アクションプランの作成」「就職活動の具体的な方法」の6種類のプログラムを用意
- ◆ 就職活動中の学生が抱える諸問題解決へのアドバイス…進路未定者、就職未内定者に対するガイダンス、キャリアアドバイザーによる個別指導やホームページを通した情報提供、キャリアサポーターと名づけられた就職内定者による助言などのプログラムを用意

以上のメニューのほかにも国家公務員採用試験説明会や企業が求める人物像をテーマに企業経営者による講演会、インターンシップガイダンスやインターンシップ体験など、多彩なプログラムが用意されている。

またキャリアセンターでは学生からのキャリア相談を隨時行っている。主な相談項目は次のとおりである。

- ・キャリアって何？
- ・キャリア・デザインの書き方
- ・学びとキャリア
- ・仕事を知るには
- ・職業興味を知るには
- ・資格の意味
- ・インターンシップって何？
- ・職業基礎能力とは
- ・いつから準備するの？
- ・企業は何を求めるの？
- ・自己分析はどうするの？
- ・業種について
- ・JOB MAP WEBの使い方
- ・その他（公務員、留学、ボランティア、編入等）

独自に能力のガイドラインを策定し 支援プログラム作成の基礎とする

このようなキャリア支援プログラムの基礎となっているのが「Asia University Career Development Guidelines 能力および指標—亜大生」である。これは日本の大学にキャリア形成およびキャリア選択に関する体系的なガイドラインがないことから、全米職業情報調査委員会（NOICC：National Occupational Information Coordinating Committee）発行の「全米キャリアデベロップメント・ガイドライン」を参考に、キャリアセンターで作成したものである。

「Asia University Career Development Guidelines」はキャリア・デベロップメント・ガイドラインを「自己認識」「教育的・職業的探索」「キャリア・プランニング」の3分野に分け、各分野で必要な「能力」を提示し、さらにそれぞれの能力に必要なガイドラインを設けている。各分野で提示されている能力は以下のとおりである。

◆ 自己認識

能力1：ポジティブな自己概念がもたらす影響を理解する

能力2：効果的な行動を維持するスキル

能力3：成長と発達の影響について理解する

◆ 教育的・職業的探索

能力4：教育の発達度とキャリア・プランニングの関係について理解している

能力5：仕事や学習に対して積極的な態度が必要であることを理解する

能力6：キャリア情報を探し出し、評価し、解釈するスキル

能力7：職を探し、確保し、変えるためのスキル

能力8：社会のニーズや機能が仕事の性格や内容にどのように影響するかを理解している

◆ キャリア・プランニング

能力9：意識決定のスキル

能力10：人生の役割の相互関係を理解する

能力11：変化し続ける男女の役割について理解する

能力12：キャリア・プランニングのスキル

CACGSを積極的に活用

キャリアセンターではコンピュータによる支援システムCACGS (Computer Assisted Career Guidance System) を導入し、学生たちの適性診断や職業選択に積極的に活用している。「キャリア・インサイト」や「OHBY」などはその代表的なものだ。学生たちはキャリアセンター内のパソコンルームでこれらのソフトを利用できる。またキャリアセンターのホームページからウェブ上でキャリアアップテストにアクセスすることができ、コンピテンシー診断やSPIテスト、一般常識テストを無料で受検することができる。

このようなキャリア形成や職業選択の支援ソフトの導入について岩崎部長は次のようにその効果を話す。

「学生の中には自分の職業的な適性について自分で判断できない者も少なくありません。また最近の若年者の早期離職率の高さを考えると、個々人の適性に見合った職業に就くことがいかに重要かがわかります。例えば「OHBY」は430種類もの職業を網羅し、個々人の職業的な興味や適性を的確に示してくれます。ゲ

亞細亞大学キャリアセンターの就職支援サイト「JMWジョブマップウェブ」。学生たちはIDとパスワードを入力して、コンピテンシー診断を受けることができる。

<http://jmw.asia-u.ac.jp/sennyu/>



ーム感覚で簡単に操作でき、学生たちの関心も高いツールです」

「VPI職業興味検査」を導入し、効果をあげる

キャリアセンターでは早くから「VPI職業興味検査」を導入し、学生たちの職業選択に大きな効果をあげている。

岩崎部長は導入のいきさつについてこう語る。

「『VPI職業興味検査』は、これまで職安行政などでは広く活用されていましたが、大学や短大などの高等教育機関では利用者は少なかったと思います。しかし、私たちは学生たちの的確な職業選択に役立つツールは何かについて検討を重ねた結果、『VPI職業興味検査』を導入することを決定しました。これはマッチング理論で高い評価を得ている職業心理学者のジョン・L. ホランドが開発したので、日本版も数多くの職業が網羅されていて学生に対する職業選択を支援する際に大きな効果を発揮するとの結論に達したのです。事実、その診断結果は学生たち自身の職業との関わりでの自己理解や適性把握はもちろんのこと、われわれの指導においても大きな助けとなっています」。

さらに次のように付け加える。

「キャリア形成支援や就職支援においては、学生たちのそれぞれの個性や特性に応じた取り組みが大切で、私たちは今後さらにきめ細かな指導をしていく方針ですが、『VPI職業興味検査』『厚生労働省編一般職業適性検査』をはじめ職業選択やキャリア支援ツールは大変心強い味方だと確信しています」